

2014 年 11 月 5 日

各位

一般社団法人ナレッジキャピタル
株式会社 KMO

**KNOWLEDGE
CAPITAL**



グランフロント大阪 知的創造拠点「ナレッジキャピタル」

就労中の女性および専業主婦、男性(計 5,000 人)を対象とした
インターネット調査「女性の就労・起業に関するアンケート」

仕事と家庭の両立

理想と現実の狭間で悩む女性たち

～9割以上の専業主婦が思う“女性が働けばもっと社会を変えられる?!”～

一般社団法人ナレッジキャピタル(代表理事:宮原 秀夫)ならびに株式会社 KMO(代表取締役社長:間
淵 豊)は、女性の活躍推進が政府・企業間で積極的に進められる中、それぞれのステージにおける女
性が輝ききっかけになればと、女性向けイベントを企画いたします。

そこで、一般の生活者が「女性の活躍推進」についてどのように感じているのかを知るため、2014 年
10 月に 20 代から 50 代の男女計 5,000 人に対し、女性の就労や起業に関する意識調査を実施いたしま
した。その結果、「理想の働く女性像」、「専業主婦が就労をためらっている本当の理由」、「収入だけで
はない働くことへの魅力」など、女性活用に対する考えがわかりましたのでお知らせいたします。

調査結果ハイライト

- 「輝く女性」のイメージは、男女ともに「家事や子育てをおろそかにせず、家庭と仕事の両立(73%)」がト
ップ!
- 「子育てをしながら働くことは大変だ」と思っている女性は、専業主婦で89.1%、有職主婦で90.1%
- 男女ともに「女性が働くにあたり、政府や企業のサポートが十分でない」と回答した方は58.5%
- 働きたいけど、働けない専業主婦の障壁は「仕事と家庭のバランスがとれるか不安(47.0%)」
- 女性が活躍していると感じるのは「男性の分野だと思っていた職業(専門職・技術職など)への女性進
出の増加(62.0%)」「育児をしながら、仕事をしている人が周りに多い(61.0%)」

当社では、本調査を踏まえ本年11月22日(土)に『ウーメン イノベーション in ナレッジキャピタル～輝
くわたしたちが社会をかえる～』を開催いたします。本イベントを通じて、輝く女性が一人でも増えることを
期待し、「女性が仕事と家庭を両立できる働き方」「自分たちで手に入れることができる女性の輝く未来」
について、来場者の方々と一緒に考えてまいります。イベントに関する詳細につきましては、別途ご案内
いたします。

以上

調査概要

調査テーマ	: 「女性の就労・起業に関するアンケート」
調査方法	: インターネット調査
調査実施時期	: 2014年10月16日(木)～19日(日)
調査対象／サンプル数	: 20～59歳男女／5,000人

調査結果概要

女性は働きたい！働き続けたい！20～30代は起業も「働く」選択肢

- ◆ 働きたいと思う専業主婦(51.9%)、働き続けたいと思う有職女性(48.5%)。
- ◆ 女性の起業意向は、20代(33.2%)、30代(26.8%)、40代(23.0%)、50代(23.0%)。

家事・育児をきちんとかなした上で、仕事もするのが理想の女性

- ◆ 「輝く女性」イメージのトップは「家庭と仕事のバランスをうまくとって、両立できる女性(45.7%)」。
- ◆ 専業主婦から見た理想の働き方は「家事や子育てをおろそかにせず、家庭と仕事を両立する(73%)」。
- ◆ 専業主婦から見た働く女性が犠牲にしていることは「子どもと一緒に過ごすこと(59.0%)」、「休憩・睡眠(59.0%)」。

女性は責任感が強い？！家庭と仕事を両立できる自信がない

- ◆ 「家事や子育てをしながら働くことは大変」と答えた専業主婦(89.5%)、有職主婦(90.1%)。
- ◆ 働きたいけど働いていない専業主婦の働く障壁となっているのが、「仕事と家庭のバランスがとれるかどうか不安だから(47.0%)」、「時間が決まっている仕事(企業勤め)は自由がきかないから(40.0%)」。

女性が働く環境整備はまだまだ不十分だと感じている

- ◆ 「女性が働くにあたって、政府や企業のサポートは十分だと思うか」の質問には「十分ではないと思う」は専業主婦(60.8%)、有職主婦(66.1%)、既婚男性(48.7%)。「十分だと思う」は専業主婦(13.6%)、有職未婚女性(12.1%)、有職主婦(12.8%)、既婚男性(12.2%)。
- ◆ 有職女性の職場で与えられている役割の満足度は、有職未婚女性(29.7%)、有職主婦(46.1%)。
- ◆ アベノミクス成長戦略『女性が輝く日本』に対する評価では、「実現可能な施策だと思う(18.4%)」。

女性は男性より適した分野があり、女性が働けばもっと社会を変えられる？！

- ◆ 専業主婦から見た女性が働くことへのイメージでは「家事や子育てをしながら働くことは大変 だと思う(95.0%)」に続き、「男性より女性の方が適している(能力を発揮できる)分野があると 思う(92.0%)」。
- ◆ 専業主婦から見て女性が活躍していると感じることは「男性の分野だと思っていた職業(専門職・技術職など)への女性の進出の増加(62.0%)」、「育児をしながら、仕事をしている人が周りに多いこと(61.0%)」に次いで「女性の経営者の増加(57.0%)」。

女性は働きたい！働き続けたい！20～30代は起業も「働く」選択肢

専業主婦も有職主婦も半数程度は働きたい、働き続けたいと考えており、特に20～30代は起業も働くこと
の選択肢のひとつとなっている。また、働くモチベーションは働くことで得られる対価(収入)だが、単に収入
を得るだけでなく、働くことで家庭以外に自分の居場所を持ちたい、自分を必要とする人がいるという自
己価値を見いだしたいという気持ちも大きなモチベーションになっている。

- 専業主婦も、現在働いている有職女性も、半数程度は働きたい、働き続けたいと思っている。
- 20代・30代女性の3割前後は起業意向を持っており、起業も「働く」ことの選択肢のひとつとなっ
ている。
- 女性が働く理由は「収入」という結果であるが、それだけではなく、自己実現のためや自分の働きに対
する正当な対価が欲しい、という気持ちもみられる。

就労意向(働きたいと思う/働き続けたいと思う)

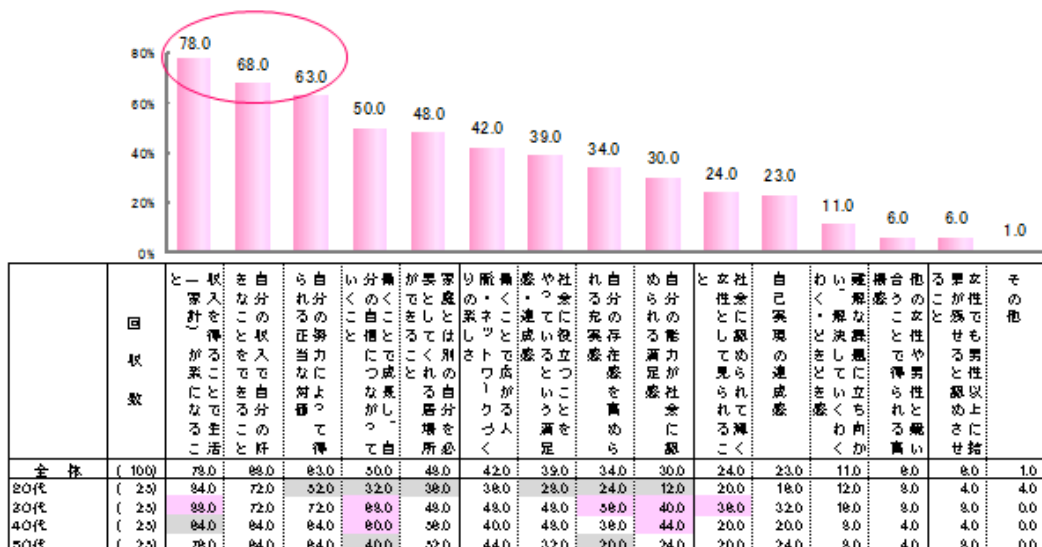
(N=2000)	意向					計	
	とてもあてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	あてはまる計	あてはまらない計
(専業主婦対象) 働きたいと思う	19.0	32.9	22.8	14.6	10.8	51.9	25.4
(有職女性対象) 今よりもキャリアアップするなどして働き続けたいと思う	17.7	30.8	29.8	15.4	6.4	48.5	21.7

女性の起業意向

年代	N	意向					計	
		とても起業したい	やや起業したい	どちらともいえない	あまり起業したくない	まったく起業したくない	起業したい計	起業したくない計
20代	1250	8.6	24.6	27.3	23.8	15.6	33.3	39.4
30代	1250	5.3	21.5	29.5	24.7	19.0	26.8	43.7
40代	1250	4.7	18.2	32.6	25.6	18.9	23.0	44.5
50代	1250	4.4	18.6	31.2	26.1	19.7	23.0	45.8

※各数値は、小数点第2位を四捨五入しているため、足し込むことにより、100%に満たないもしくは超える場合がある

働く理由(複数回答・専業主婦対象)



注)数値は回収数を100とした%

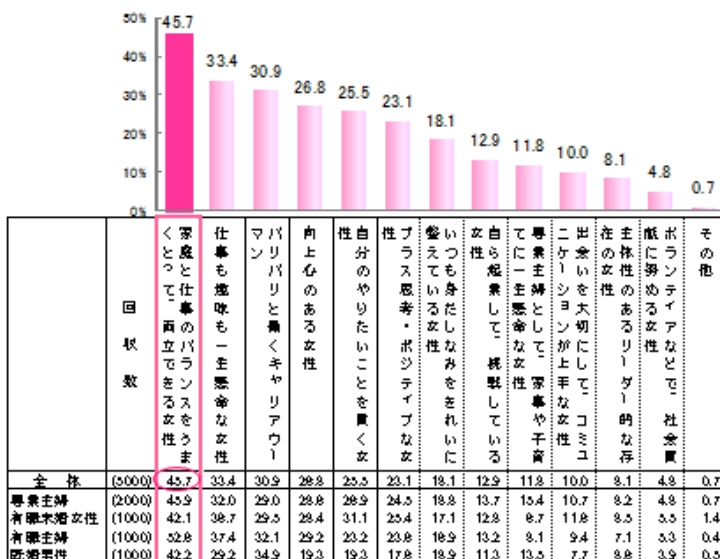
家事・育児をきちんとこなした上で、仕事もするのが理想の女性

家事・育児をおろそかにせず、家庭と仕事を両立させる女性が、女性にとっても男性にとっても理想。

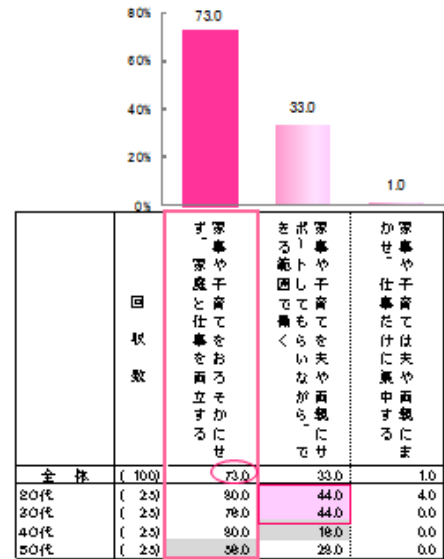
専業主婦は、働くことによって子どもとの時間や自身の休息が十分に取れなくなっている。

- 「輝く女性」と聞いて真っ先に思い浮かべるのは、男女を問わず、専業主婦も有職女性も「家庭と仕事のバランスをうまくとって、両立できる女性」。
- 専業主婦の7割強は「家事や子育てをおろそかにしない」働き方を理想としており、バランスをとる中でも家庭では手を抜かず、きちんとしたいという意志が感じられる。有職女性も未婚・既婚問わず、両立できる女性を「輝く女性」と考えている。
- 理想とする働き方では、20代・30代の専業主婦は家事・育児に夫や両親のサポートを期待。
- 専業主婦の約6割は、働くことによって子どもと一緒に過ごす時間が減り、子育てに支障がでると考えている。また、自身の「休息・睡眠」の時間も減ることで、家庭と仕事の両立が難しいと感じていることがうかがえる。

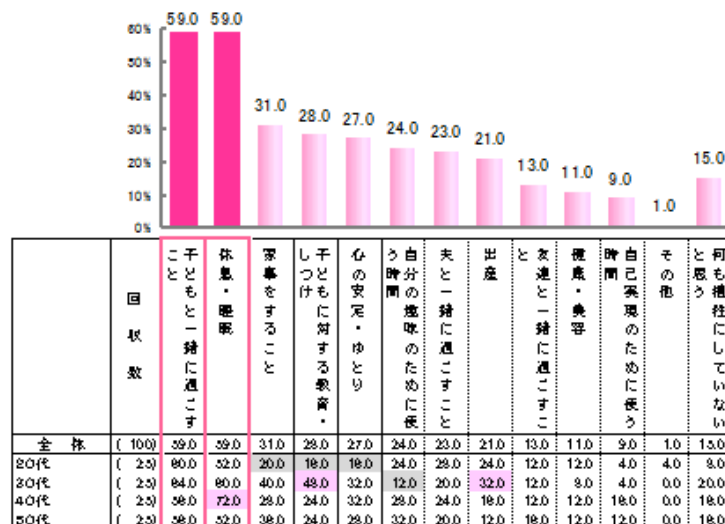
「輝く女性」イメージ (3つまで回答)



理想の働き方 (複数回答・専業主婦対象)



働く女性が犠牲にしていること (複数回答・専業主婦対象)



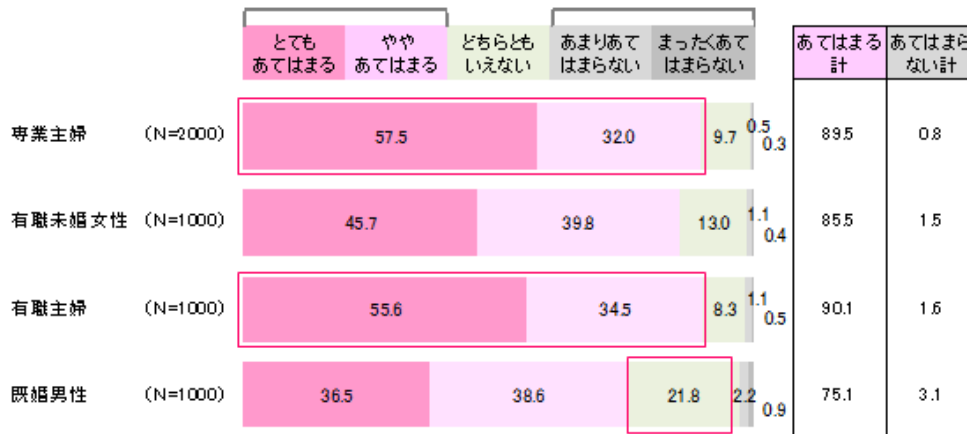
注) 数値は回収数を100とした%

女性は責任感が強い？！家庭と仕事を両立できる自信がない

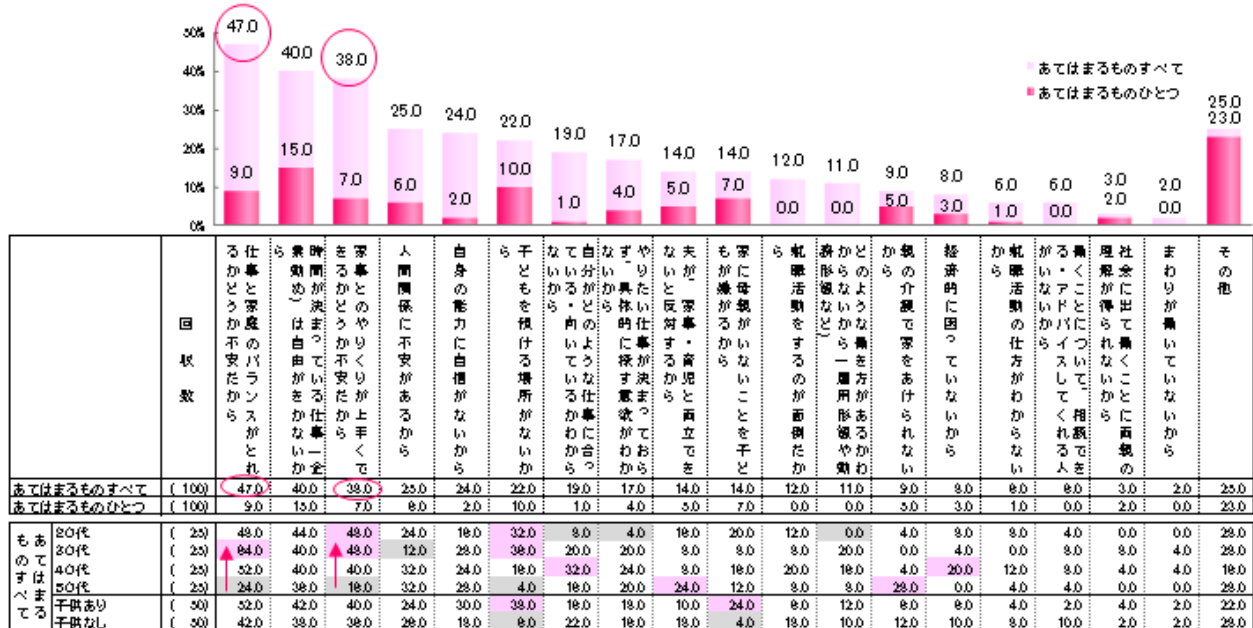
女性のほとんどは仕事と家庭を両立することは難しいと考えており、専業主婦が就労をためらう一因ともなっている。特に若い女性の負担感は強い。男性は女性ほど両立が負担であるとは感じていない。

- 女性の9割程度は「家事や子育てをしながら働くことは大変だと思う」と感じており、主婦では「とても大変」が専業、有職を問わず半数を超える。既婚男性は女性ほど大変だとは感じておらず、2割ほどは「どちらともいえない」と判断を保留している。
- 専業主婦は働けない理由として「仕事と家庭のバランスがとれるかどうか不安」を一番にあげており、「家事とのやりくりが不安」も高く、特に若い層で高い。子どもや夫など家族を理由にあげる人は少なく、仕事と家庭の両立が自分自身にできるかどうか、漠然とした不安が最大のハードルになっている。家庭と仕事を両立したいという思いが強いこそ、不安も大きくなっていると思われる。

「家事や子育てをしながら働くことは大変だと思う」



専業主婦の就労の障壁(複数回答・単数回答、専業主婦対象)



(注)数値は回収数を100とした%

女性が働く環境整備はまだ不十分だと感じている

有職未婚女性は、職場で与えられる役割に不満を抱いている人の方が多いが、有職主婦は家庭とのバランスが保てる仕事量や役割に半数近くが満足している。しかし、そんな有職主婦も有職未婚女性同様、政府や企業のサポートは不十分だと考えている。

- 女性が働くにあたっての政府や企業のサポートが十分と感じている人は、有職無職、男女を問わず1割程度に過ぎず、半数以上が不十分と感じている。
- 有職未婚女性は職場で与えられている役割に満足できないと3割近くが感じていて、より切実に実現可能な施策を求めているとみられる。
- アベノミクス成長戦略に組み込まれている『女性が輝く日本』については、「実現可能な施策」と思う人は2割程度にとどまっている。
- また、「起業したい」と思っている人から見たアベノミクス成長戦略『女性が輝く日本』は、5割以上が興味・関心を持ってはいるものの、6割近い人が政府の施策に対し、十分ではないと感じている。

「女性が働くにあたって、政府や企業のサポートは十分だと思う」

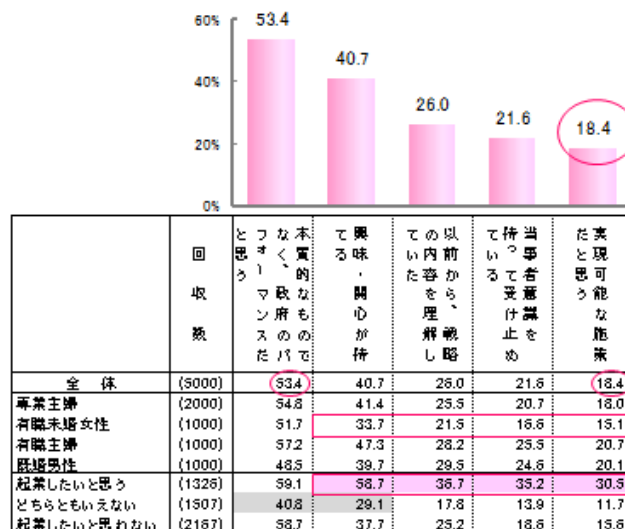
	十分	まあ十分	どちらともいえない	あまり十分ではない	まったく十分ではない	十分計	十分ではない計
専業主婦 (N=2000)	5.2	8.4	25.7	31.6	29.2	13.6	60.8
有職未婚女性 (N=1000)	3.7	8.4	29.9	30.9	27.1	12.1	58.0
有職主婦 (N=1000)	4.5	8.3	21.1	35.2	30.9	12.8	66.1
既婚男性 (N=1000)	2.7	9.5	39.1	31.5	17.2	12.2	48.7

※ 各数値は、小数点第2位を四捨五入しているため、足し込むことにより、100%に満たないもしくは超える場合がある

有職女性の職場で与えられている役割への満足度

	とても満足している	やや満足している	どちらともいえない	あまり満足していない	まったく満足していない	満足している計	満足していない計
有職未婚女性 (N=1000)	6.0	23.7	37.3	20.9	12.1	29.7	33.0
有職主婦 (N=1000)	9.3	36.8	34.0	13.6	6.3	46.1	19.9

アベノミクス成長戦略『女性が輝く日本』について(5段階評価の「あてはまる」計)



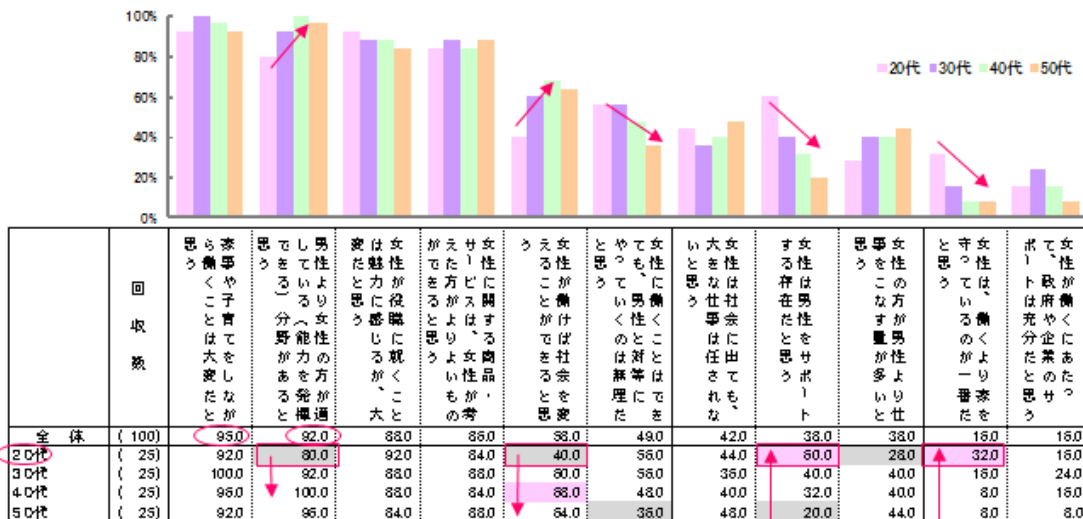
注) 数値は回収数を100とした%

女性は男性より適した分野があり、女性が働けばもっと社会を変えられる!?

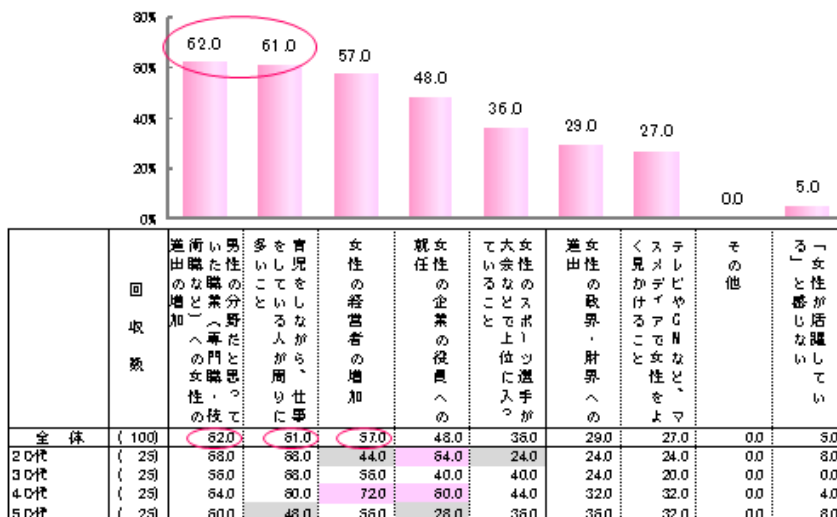
専業主婦は、年代により女性が働くことに対するイメージ意識に違いがみられる。特に 40 代は男性より女性の方が適した分野があり、女性が働けば社会をもっと変えることができると考えている。逆に 20 代は、男性と対等にやっていくのは無理で、女性が社会を変えることは難しい、女性は男性をサポートする存在という意識が強く表れている。年代に関わらず、男性イメージが強い分野で女性が活躍していることには関心・興味が高い。

- 専業主婦が抱く「女性が働くことに対するイメージ」は、年代が上がるほど「女性の方が適している分野がある」「女性が働けば社会を変えられる」が上がる。
- 逆に「男性と対等は無理」「女性は男性のサポート役」「女性は家を守るのが一番」といったネガティブな意見は 20 代が高い。家庭と仕事を両立することへの不安が強く、社会に出ることをためらう若い主婦は、女性の能力に自信を持ってないと思われる。
- 「女性が活躍している」と感じることは、「男性の分野への女性の進出」と並んで、「育児をしながら仕事をしている人」が高い。男性と対等にやっていくのは無理だと思っている女性が半数程度を占めているためか、男性イメージの強い領域への女性の進出は、特に活躍の関心度が高いようである。

女性が働くことに対するイメージ (5段階評価の「あてはまる」計、専業主婦対象)



「女性が活躍している」と感じること (複数回答・専業主婦対象)



注)数値は回収数を100とした%

調査概要詳細

	スクリーニング調査	専業主婦調査
調査目的	女性の就労・起業に関する意識を把握する。	
調査方法	インターネット調査	
調査地域	関東圏(茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県) 関西圏(滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県)	京都府、大阪府、兵庫県、奈良県
調査対象とサンプル数	20歳～59歳男女個人 ・専業主婦 : 2,000サンプル ・有職未婚女性 : 1,000サンプル ・有職既婚女性 : 1,000サンプル ・既婚男性 : 1,000サンプル ※各対象、年代別に割り付け	20～59歳の専業主婦 働く意向はあるが、働いていない人 (スクリーニング調査より抽出) 100サンプル
調査実施期間	2014年10月16日(木)～19日(日)	
調査実施機関	株式会社 電通マクロミルインサイト	

スクリーニング調査・年齢

	20～24才	25～29才	30～34才	35～39才	40～44才	45～49才	50～54才	55～59才
全体 (N=5000)	8.5	16.5	12.2	12.8	12.4	12.6	13.1	11.9
男性 (N=1000)	3.4	21.6	11.1	13.9	11.8	13.2	13.4	11.6
女性 (N=4000)	9.8	15.2	12.5	12.5	12.5	12.5	13.0	12.0

専業主婦調査・年齢

	20～24才	25～29才	30～34才	35～39才	40～44才	45～49才	50～54才	55～59才
全体 (N=100)	6.0	19.0	12.0	13.0	11.0	14.0	14.0	11.0

居住地

	回収数	茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県
スクリーニング調査	(5000)	2.9	2.1	1.7	8.6	6.8	18.9	11.7	2.2	4.9	22.1	13.3	3.0	1.7
専業主婦調査	(100)	-	-	-	-	-	-	-	-	10.0	47.0	35.0	8.0	-

(注)数値は回収数を100とした%